



ロータリー財団について

国際ロータリー第2510地区

2010-2011年度 ガバナー **佐々木正丞**

(札幌RC)

このたびの東日本大震災により被災された皆様とその関係者の方々に對しまして、心よりお見舞い申し上げます。当地区では、「RID2510大震災救援奉仕プロジェクト委員会」を組織し、次期ガバナーと連携し、特別プロジェクトを実施することにしました。ガバナー会に於きましても同様の動きをしており、一日も早い復旧復興をお祈り申し上げる次第です。

月信11月号でふれましたが、1917年に第8代RI会長アーチ・クランフにより基金として創設されたロータリー財団は、2017年の創設第2世紀にむけて大きく動き出しました。新しい制度は「未来の夢計画 (Future Vision Plan)」と呼ばれています。

なぜ、「未来の夢計画」が立案される必要があったのかを、振り返ってみたいと思います。ロータリー財団は創立以来、大きな発展を遂げてきました。特に人道的分野において高い評価を得ています。1965年に開始されたマッチング・グラントは、最初の35年間に1万件が授与されましたが、その後わずか4年間に1万件、また、その後の4年間でさらに1万件が授与されました。すなわち、ロータリー財団の成功が、エバンストン本部の職員の仕事を圧迫してしまっただけであります。管理委員会はロータリアンのニーズに応えるべくサービスの提供方法を再考することにしました。管理委員会と理事会は大きな成果と長期的な持続が望めるプロジェクトを目指し、財団プログラムをできる限り簡素化するための対策を講じることとなりました。こうして、1万人あまりのロータリアンの意見を取り入れた「未来の夢計画」はスタートしたのであります。今後の新補助金は「新地区補助金」と「グローバル補助金」の2種類となり、さらに、「グローバル補助金」は「クラブ&地区計画補助金」と「パッケージ・グラント」に分かれます。

「未来の夢計画」では、「5つの優先事項」を掲げていますが、大きく2つに分類され、その趣旨は、「プログラムの簡素化」と「地区の裁量権の拡大」であると思われます。1つ目の「プログラムの簡素化」とは、財団が示している6つの重点分野（主に発展途上国を対象とした人道的プログラム）を想定し、この分野に力点を置くものです。ワールドファンド (WF) から資金が拠出されるグローバル補助金 (グラント) は最低3万ドルという大規模のプロジェクトに限定され、分野と件数を絞ることによって持続的で効果のあるプロジェクトを実現します。資金的にも地区財団活動資金 (DDF) の50%超をこのプログラムに充てるのが可能なため、財団が最も力を注いでいるところです。2つ目の「地区の裁量権の拡大」とは、従来はDDFの最大20%が地区の裁量権の範囲（地区補助金使用として）であったものが、今後は、この枠がDDFの最大50%へと増大することになります。クラブと地区は地元や海外で幅広い人道的・教育的活動を実施することができますが、裁量権の拡大とともに、地区の資金管理に対する責任が大きくなります。

クラブや地区サイドから見た変更点は、第1番目に「新地区補助金」プロジェクトを実施するにあたっては、「計画年度」と「事業年度」という2年がかりの事業になったということです。「新地区補助金」プロジェクトは、地元や海外の小規模のニーズに対応するものであり、事業そのものは単年度で終了するものがほとんどではありますが、「新地区補助金」の申請が「一括申請」のため実施の前年度に申請しなくてはなりません。第2番目の変更点は、「グローバル補助金」プロジェクトにおいても、複数年にまたがる事業になる可能性があるということです。「グローバル補助金」は「持続可能性」が要求されるので、もともと単年度では終了しない事業なのですが、「提案書」と「申請書」の2段階の審査になったことも、複数年度にまたがる事業となる要因です。このことは、「単年度制」に慣れ親しんでいるクラブや地区にとっては注意が必要です。

会員個人・クラブ・地区・RIのそれぞれの奉仕の多様化、そして、単年度制から長期計画へとロータリーは変化していきます。

2013年から実施されるロータリー財団の新補助金制度に一日も早く慣れ親しんでいただきたいと思います。